
ツンデレな鶴のおんがえし

小ノ林次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ツンデレな鶴のおんがえし

【Nコード】

N0021C

【作者名】

小ノ林次郎

【あらすじ】

たいして昔じゃありません。ダメダメなじじいが、かわいいツンデレな鶴を助ける、そんなお話だよ。じじいの時代はくるのかなあ。

たいしてむかしじゃございません。

あるところに、独り身で老いさばってしまった、しがないじじいがありました。

じじいは、若いころから俺はビッグになるんだ、といきがっていましたが、生涯独身無職のため人間。今は国民の血税から捻出されている生活保護を受けながら、余生をわびしく過ごしている、生きるだけではた迷惑な人です。

さて、そんなじじいですが、ある晴れた日に、美少女フィギュアを視姦するためにアニメイトに散歩にいったところ、道中で、つけもの石に羽をつぶされている、きれいな鶴を見つけました。

（この鶴を助けないと物語が進まないから、四の五の言わずに助けなさい老いばれが）

そろそろ天に召されるときも近いのか、じじいは神様の声を聞き、鶴を助けました。

「べ、別に助けて欲しくなんかなかったんだから！ 感謝なんか全然してないもん！ お、覚えてなさいよ！」

鶴がかわいい幼女の声で、人の言葉をしゃべったのですが、そういう設定は暗黙の了解なので、じじいは別段驚きませんでした。

夕方になりました。最近流行のおたく狩りに遭うわけにもいけないので、じじいはすこすこ家に帰り、六畳一間のワンルームマンションで、情眠を貪るべく布団にもぐりこみます。

そして、じじいがまどろみかけたころ、こんこん、とドアを叩く音がしました。

じじいが応対に出ると、

「たっ、宅配便！」

若い女の子の声です。バイトの子でしょうか。

でも、じじいが印鑑を持ってドアを開けると、そこには宅配便の制服を着た女の子はいませんでした。

代わりにいたのは、なんと和服を着た大和撫子。でも、目つきはツンツンしていて、気が強そうです。あと、髪型はショートカットです。そこだけは絶対にお譲り出来ません。

はて、宅配便はどうなったのかのう？ いまいち状況がわからずじじいが言っと、和服美女はツンとした目を伏せてちよつとしおらしくなり、

「ご……ごめんなさい、嘘なの……。だって、恩返しするために来たんだなんて、は、恥ずかしくて、いつ、いえないもん……」

恩返しとは、なんのことかのう？ 本当は、この美女が昼間の鶴だということは空気でわかっているのですが、そこは年の功。じじいはわざと、とぼけました。

「ばか……いじわる。わかってるくせに！」

鶴は、真っ赤になって、じじいの胸にしなだれ込みます。その艶のある（略）

それから、潤んだ目でじじいを見上げて、ぽそりといいました。

「さっきの、『宅配便が嘘』っていったの、取り消し。あたし、宅配便しにきたんだもん。届けにきたにもつは……わからないなんてとぼけちゃやだからね！」

じじいは、ついにわしの時代が来た、と、ほくそ笑んだのでした。

（後書き）

筆者はショートカットフェチです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0021c/>

ツンデレな鶴のおんがえし

2010年10月9日00時42分発行